

規律と自由再起後押し

不登校の小中学生は近年増加を続け、最新の2018年度調査で16万人を超えた。勉強の不振や対人関係のトラブルなど、きっかけはさまざま、その子に合った寄り添い方が求められている。特色のある取り組みをしている支援団体を取材し、ヒントを探った。

NPO子どもにも合わせ寄り添う

通信制高校での学びを補完するサポート校や、フリースクールなどを運営するNPO法人「高卒支援会」(東京都新宿区)。中卒浪人らの支援塾を長く運営してきた杉浦孝宣さん(60)が、10年に設立した。19年度は不登校の生徒や高校中退者ら13〜20歳前後の約60人が在籍した。

4月初旬、東京都内で同会の新年度の生徒会が開かれた。運営を支えるスタッフも参加した会場は、和気あいあいとした雰囲気。この日の会では、引きこもりの子の自宅への訪問も手伝う「学生インターン」を募集。サポート校に通う通信制高校1年の男子生徒(15)が「経験を生かして、苦しむ子を助けたい」と志願した。中一の大型連休明け、学校の厳しさが嫌で通えなくなり、自室に閉じこもった。

不登校の小中学生16万人超

不登校の小中学生は近年増加を続け、最新の2018年度調査で16万人を超えた。勉強の不振や対人関係のトラブルなど、きっかけはさまざま、その子に合った寄り添い方が求められている。特色のある取り組みをしている支援団体を取材し、ヒントを探った。



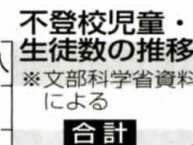
NPO法人「高卒支援会」に在籍する高校生やスタッフらが参加して開かれた生徒会

休校明けの子 心理懸念

学校の長期休暇明けは、子どもたちの心が不安定になりがちとされる。新型コロナウイルスの感染防止で異例の長期休校が続く地域が多い中、NPO法人「全国不登校新聞社」の石井志昂編集長は「学校再開時に、かつてないほどの数の子が行きたくない気持ちを爆発させるのではないかと心配です」と懸念する。

専門家「安心で

も急務だ。不登校や引きこもりの経験者らでつくる「ひきこもりUX会議」の恩田夏絵代表理事は、「心がボロボロのときは、フリースクールなどで自分と近い状態の人たちと触れ合い、安心感を持てるようにすることが大事」と指摘する。



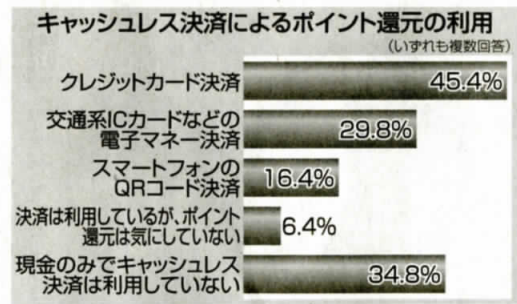
消費税増税後のポイント還元 クレカ利用最多45%

時事世論調査

昨年10月の消費税増税後の負担軽減策で導入されたキャッシュレス決済のポイント還元について、時事通信社の「生活のゆとりに関する世論調査」を実施したところ、クレジットカードでの利用者が約4割強を占めるなど最多だった。

「現金のみ」は34%

6月末までの時限措置で、肢から複数回答で聞いた。導入されたキャッシュレス 最多はクレジットカード 決済のポイント還元について 決済でポイント還元を利用 して「現金のみでキャッシュレス決済は利用していない」は34.8%、クレジットカード決済は45.4%、交通系ICカードなどの電子マネー決済は29.8%、スマートフォンのQRコード決済は16.4%、決済は利用しているがポイント還元は気にしていないは6.4%、現金のみでキャッシュレス決済は利用していないは34.8%



コロナを忘れるひととき

大河原克子

希望を抱いて東京の大学に入学することになった女孫。早く東京に慣れるために3月、早々と家を離れた。勇んで行ったものの新型コロナウィルス騒ぎで学校はおろか、外出もままならず、アパートに缶詰め状態になって1カ月が過ぎた。

心配なのでたまに大丈夫かとメールを打つ。「何かあったら連絡するから心配しないでね」と返ってくる。「迎えに行くからいったん帰ってきたら」と言いつつ、「ウィルス運ぶと悪いから帰らない」とのこと。喜ばないのか悲しいのか。草餅でも作って送ってあげよう

ティータイム

手作りマスク

佐藤 幸子

「俺、マスク作るのに」と言う夫に「型紙さえあればね」と私。そうしたら、ある日、ついに実物大の型紙が新聞に載った。早速トレスし、マスク作りをした。出来上がるたびに家族に見せると、「それはちょっと」とか「それはいい」とか評価され、いろいろと工夫をしてみるようになった。

料理のヒント

大根と牛肉煮込み

主な材料 牛細切れ肉、シヨウガ、紹興酒、塩分1